

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の経済政策および企業収益や雇用環境の改善などを背景に回復基調にあります。

このような経営環境のもと、当社グループは、主力とする調剤薬局事業におきましては、「患者のための薬局ビジョン」の実現に向けた取り組みを進めております。ヘルスケア事業におきましては、前期に続いて有料老人ホームの継続的な入居者確保を推進し、事業規模および収益拡大に努めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、売上高15,456百万円(前年同期比4.7%増)、営業利益735百万円(同38.3%増)、経常利益718百万円(同45.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益765百万円(同58.1%増)となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、薬剤料単価が前期を下回ったため減収となりましたが、利益面におきましては、原価管理の強化を図ったことにより増益となりました。

この結果、売上高11,242百万円(前年同期比1.1%減)、営業利益831百万円(同17.9%増)となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、有料老人ホームの入居者確保、および平成28年9月にグループ化したウェルフェア株式会社の売上が寄与したことで、大幅に増収増益となりました。

この結果、売上高2,958百万円(前年同期比31.2%増)、営業利益187百万円(同72.9%増)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、三重県、岐阜県、滋賀県および愛知県を中心に積極的な営業活動を行った結果、増収増益となりました。

この結果、売上高1,190百万円(前年同期比10.5%増)、営業利益64百万円(同58.3%増)となりました。(内部売上を含む売上高は1,616百万円となり、前年同期比で15.8%増加しました。)

(不動産事業)

不動産事業におきましては、賃貸不動産からの収入によって、売上高64百万円(前年同期比5.1%増)、営業利益35百万円(同17.8%増)となりました。

また、投資事業におきましては、投資有価証券売却益および投資その他の資産の売却益488百万円を計上しております。

なお、セグメント間の内部売上高として444万円を消去するとともに、全社における共通経費として383百万円を計上しております。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は25,933百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,024百万円増加いたしました。

流動資産の合計は11,651百万円となり、前連結会計年度末と比較して1,129百万円増加いたしました。これは主に、売掛金が704百万円、現金及び預金が166百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

固定資産の合計は14,282百万円となり、前連結会計年度末と比較して104百万円減少いたしました。これは主に、投資有価証券が317百万円増加したものの、投資その他の資産その他が279百万円、建物及び構築物が147百万円それぞれ減少したこと等によるものです。

負債合計は16,989百万円となり、前連結会計年度末と比較して175百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が454百万円、未払法人税等が140百万円それぞれ増加し、長期借入金(1年内返済予定を含む)が456百万円減少したこと等によるものです。

純資産合計は8,944百万円となり、前連結会計年度末と比較して849百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金が688百万円、その他投資有価証券評価差額金が163百万円それぞれ増加したこと等によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同現物(以下、「資金」という。)は5,355百万円となり、前連結会計年度末と比較して155百万円増加いたしました。

当第2四半期連結累計期間における、各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、523百万円(前年同期比130百万円の収入増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益1,191百万円、仕入債務451百万円の増加、減価償却費及びのれん償却額が387百万円あったものの、売上債権704百万円の増加、投資その他の資産売却益が418百万円、法人税等306百万円の支払があったこと等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、154百万円(前年同期比218百万円の収入減少)となりました。これは主に、投資その他の資産の売却による収入767百万円、投資有価証券の売却による収入264百万円があったものの、預り金269百万円の減少、投資有価証券の取得による支出265百万円、有形固定資産の取得による支出138百万円があったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、521百万円(前年同期比189百万円の支出減少)となりました。これは主に、短期借入金及び長期借入金412百万円の純減少、配当金76百万円の支払があったこと等によるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の業績予想につきましては、平成29年7月19日公表の数値から変更はありません。